

住みごこち一番・可児 ―～すこやかに、にぎやかに、おだやかに暮らせるまち～

春らんまん!



蘭丸ふるりの森

令和6年度 三大ニュース（実績）

5月19日

街頭啓発

『帷子地区センターまつり』

・啓発グッズ(500個)配付



12月7日

高齢者人権講演会

場 所 福祉センター 大ホール
 講 師 葉袋氏・立木氏
 テーマ 自分の人生の舵は、最期まで自分でとる!!



年 間

学校への支援

・標語 (24周年)、300字小説 (17周年)
 ・ぬくもり教室 (13周年)
 ・人権本巡回 (16周年) 70冊×2コース全小学校巡回



土田小・今渡北小で開催

ぬくもりのよろこび

【生涯学習】

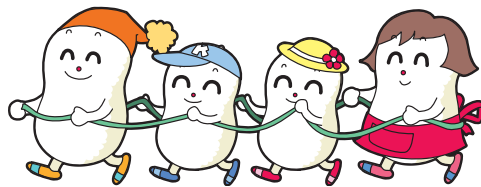
可児市人権啓発センター会長 大歯 美代子

私が、本センターの推進員になって5年目となります。初めは、何も分からないまま活動をこなしていましたが、自分より高齢の推進員の方でも生き生きと活動し続けている姿は、自分の心に深く刻まれ、生涯にわたって学び続け、より良い人生を築いていくための基礎を身につけることができるような気がします。

「人権啓発センター」は県内に3施設しかありません。本センターはそのうちの一つであることを誇りに思い、これからも事務局そして推進員の方々と市民への啓発活動に取り組んでまいります。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

特集 令和6年度

(審査員：他団体の代表と関係者)



第24回 人権啓発入賞[標語]の部

2,857作品より選考

【最優秀賞】

ありがとう ささいなことも つたえよう
ほりた いおり (小学五年生)

【優秀賞】

「あたり前」 そんな日々にも ありがとう
伊藤 柑花 (小学五年生)
ささやかな 気づかいだけで 救われる
久保 華恵 (中学二年生)
行動で あなたの心 表せる
林 梨杏 (小学六年生)
ごめんねと いえるともだち かつこいい
横山 瑠美 (小学二年生)
さべつせず 人とのちがいは わるくない
細江 りつき (小学三年生)

【入選】

顔上げて あなたの想いを 仲間が支える
PN: サマースノー (一般)
「また明日」 なに気ないけど 生きる光
大西 かずは (小学六年生)
ごめんねと いえたあなたに きんめだる
久保 明璃 (小学五年生)
それいいの? 書く前 言つ前 確認を
三浦 煌喜 (小学六年生)
考えよう 発する言葉 その先を
田中 和磨 (中学三年生)
「見てるだけ」 その行動で イジメは加速
岡崎 葵 (中学二年生)
思いやりは心から生まれ 心は生き方で育つ
奥村 ひろみ (一般)

一人から 伝せんして 思いやり

福岡 優月 (小学六年生)

思いやり 勇気を出して 声をだす

瀬戸 悠稀 (小学六年生)

なりたいな だめだとしつかり 言える人

細江 桃香 (中学二年生)

やめようね いやな気持ちに なる言葉

黒木 しゅん (小学四年生)

見直そう 言葉の針は ぬけないよ

三宅 陽斗 (小学六年生)

ありがとう 言つて言われて 心を繋ぐ

小川 桃奈 (中学二年生)

つくりあおう 正直な気持ち 言える場所

近藤 葉月 (中学一年生)

過去よりも 今の自分を評価する

武藤 真唯 (中学一年生)

ありがとう きみの一言は 心のささえ

小西 望結 (小学五年生)

いじめはね 相手も自分も きずつくよ

平田 咲月 (小学四年生)

大切に 仲間の意見 認め合い

柳生 燈万 (中学二年生)

大丈夫 その言葉が 助け舟

柴田 悠希 (中学三年生)

お互いの 強さも弱さも 受けとめる

甲斐 ひなた (中学一年生)

自分の夢 叶うかどうか 自分次第

田中 彩葉 (小学六年生)

みのがさない いじめという名の モンスター

山口 陽大 (中学一年生)

言葉はときには武器になる 考えよう

服部 莉子 (小学六年生)

道路よりも砂浜の方が歩きにくい

大隅 至道 (中学一年生)

ただと足跡が残るのは?

【最優秀賞】

大切な友達

高橋 葉々夏 (小学六年生)
「友達って数が多い方がいいのかな。」ふと、疑問に思った。自分にも友達はいるけど、やっぱり、友達って多い方が楽しく生活できそうだな。じゃあ、友達が少ないって、よくないのかな? なかなか答えは出てこない。「どうしたの。何かあった。」お母さんが声をかけてきた。「友達って数が多い方がいいのかな。」「うーん。友達って数じゃないんだよね。大切なのは、自分のことをよく分かってくれて、お互いを認め合える人ってことだと思っな。」お母さんの言葉を聞いて思った。友達は数じゃない。自分のことを大切に思ってくれる人が一人でもいてくれたら、それでいいんだ。多くても少なくても、友達は友達。うん。これからはもっと、友達を大切にしていこう。



第17回 人権啓発入賞[300字小説]の部

294作品より選考

【優秀賞】

私の宝物

田根 紅羽 (中学二年生)

夏休みが明けた頃。私のクラスに一人の女の子が転校してきた。その子は、フィリピン人の子で日本語が少ししか話せなかった。私はその子のことがとても気になっていたがはずかしくて話せなかった。すると、バチツと目が合った。そしてその子がニコツとほほえんでくれた。私はうれしくておもわず話しかけた。「よろしくね!」そういうとその子も「よろしく」とすこしカタコトだけど笑顔で話してくれた。私は、「よろしく」この言葉だけでこんなにうれしくなるんだとほほえましい気持ちになった。だから私は「よろしく」という言葉を大切にしてくれからもたくさんの人とのつながりをふかめていきたい、そう思った。この経験、この言葉が私の宝物だ。



【優秀賞】

私のあこがれ看護師さん

P.N.T.H. (小学六年生)

私の将来の夢は看護師です。小さい時から今もずっとあこがれています。その理由は、五才の時にありました。

今から、七年前に私は、一型糖尿病という大きな病気にかかりました。理由はわからないけど、今の時点では治らない病気です。入院も三週間ぐらいしました。最初の方はご飯もおやつも食べられませんでした。でも、そんな時、看護師さんは、私の病室にくると、優しく話しかけてくれます。私の嫌いな採血や点滴の時も、「Hちゃん、がんばったね。」や「いつも、えらいね。」とはげましてくれました。

私も、将来は看護師になって、私のような小さな子たちを助けさせる看護師になります。



【入選】

助ける

村瀬 到真 (小学五年生)

ほくは、助けるという行いを、かんちがいしていました。

ほくは、今まで助けるという行いは、だれかにお返しや感謝してもらうためにやってきました。でもそれはちがいました。あるとき、道徳の授業で先生が、

「助けるということは、たんに一方的な行いであって、だれかに何かしてもらうためにやるのではない。」

と言っていました。その言葉を聞いてから、ほくは、助けるという行いをかんちがいしていたことに気づきました。

それから、何もしてもらえなくても、先生の言葉を思い出してなっとくするようにになりました。



【入選】

男女差別

上田 愛夏 (小学六年生)

ほくはかわいい物が好きだ。どんな物が好きか聞かれたらほくは、「かわいい物が好き。」と答える。けど、もうかわいい物が好きなんと言わない、いや、言えないんだ。かわいい物が好きと言ったら、家族や友達が、白い目でほくを見たり、笑ったりする。家族からは、「男の子らしくいなさい。」と言われるけど、男の子らしくとは何だろう。女の子がカッコイイのを好きというのと同じじゃないか。けどカッコイイのが好きな女の子は、ほくみたいに白い目で見られたりしていない。平等だ。ある日、女の子がみんなに言った。「男の子がかわいい物好きでもいいじゃん。」ほくはうれしかった。これからは、堂々と、かわいい物が好きと、言おうと思えた。

【入選】

勇気を出せば人は変わる

村瀬 晶哉 (小学六年生)

学校の帰り道。いつも道路を掃除してくれるおじさんがいた。ほくは心の中ではとても感謝しているが不安に負けて言葉が発せられなかった。「言葉で感謝を表したい。」そう思った時にはもうおじさんを通り過ぎていた。次の日、いつもどおりおじさんが掃除をしていた。そして勇気を出して言った。「いつも道路の掃除、ありがとうございます。」と言った。するとおじさんは、「こちらこそありがとうございます。」と言ってくれた。この言葉一言でほくの心の中の不安や恥ずかしさが一気になくなった。あのとき以来、ほくは誰にでも感謝の気持ちを伝えられるようになった。言葉一つで人の気持ちが変わる。そういうことが分かったと思う。

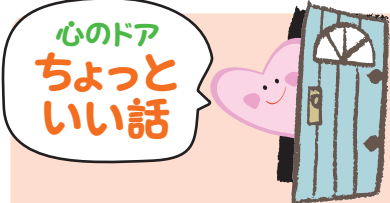
【入選】

こいつと友達でよかった

松林 伶菜 (小学六年生)

俺は昨日、テストの点数が悪くて親に怒られイライラしていた。するとあいつが「大丈夫? 私が教えようか。」と言ってきた。けど俺は、八つ当たりで「お前と違って、私は勉強できるから。つてことか? それに俺の点数が悪くてもお前には関係ないだろ。話しかけてくん。」と言ってしまった。なのに「昨日はごめん。」と話しかけてきた。「なんでお前が謝るんだよ。」「だって私がお前だろ。」そんな話をした。そしていつも通り。でも俺の気持ちは晴れない。だから、勉強を教えてもらってる時、「悪かった。」と伝えた。「ありがとう。の方が嬉しいな。」と笑った。こいつと友達で良かったと強く思った。





ほんわか旅行

めぐりまゆちゃん 47

〈自分は誰かの役に立っている〉
作・画：miho



(当センター事務局長による作品です)

★ある校長先生から、電話・300字小説の締め切り直前に電話がありました。「児童に『あなたの得意を生かして、300字小説に応募してみたら』と話すと、後日3作品作ったので先生に選んで欲しいと…。自分では選べないので、全て出して良いですか？」このこと、校長先生自身が、児童の個性を把握し声を掛け行動してくれる。可児市には素晴らしい児童・校長先生がいることに感激しました。(H・M)

「啓発のひかり」

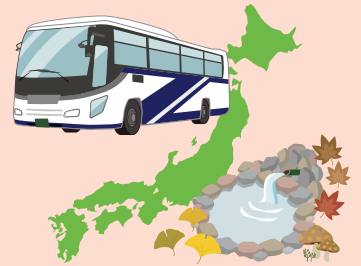
私には釣り、温泉、サウナ、旅行が大好きという6歳年下の友人がいます。その彼に、磐梯山温泉と鬼怒川温泉の二泊三日バスツアーに誘われ参加した時の話です。

私たち2人は、指定されたバスの座席に座ってワクワクした気持ちで出発するのを待っていました。そこへ、2人の高齢の婦人が乗車されて我々の座席の後ろに座られました。2人は姉妹で、姉は足が不自由なので旅行好きなお友が毎回付き添って、全国あちこちと旅をしているということでした。

私たちは、この2人連れの姉妹のバスの乗り降りや階段を上り下りする際の手助けを3日間進んでやりました。最終日に姉妹がこんなことを話されました。

「初めて出会った私たちに、3日間お世話をしていただき、本当にありがとうございました。あなた方の親切に心より感謝しています。御蔭で思い出に残る楽しい旅をすることができました。あなた方に会えて、とても幸せです。また、いつかどこかで出会えたらうれしいです。」

私たちのちょっとした行動が、こんなに喜ばれ、感謝してもらえて清々しい気持ちになりました。親切をする人もされる人もほんわかかな気分になることを再認識できた旅でした。また、ほんわか旅行がしたいです。(W・M)



啓発ってどんなことをしているの? その8

人権旗掲揚



毎年12月10日は世界人権デーです!

毎年人権週間に、推進員さんと人権旗の掲揚を行っています。

今年度は11月27日～12月11日まで、可児市役所正面玄関と総合会館にて掲揚しました。

可児市内の子どもたちや市民の皆様から頂いた素敵な標語が、人権旗になっています。

